

チーム医療：褥瘡回診（褥瘡対策委員会）

—概要—

褥瘡対策委員会のメンバー構成は、医師、看護師、薬剤師、栄養士、作業療法士、事務職の多職種で構成されている。褥瘡対策委員会は2カ月に1度開催され、院内の褥瘡対策指針・対策マニュアルの作成や修正を行なっている。また、褥瘡回診チームを編成し、全病棟の回診、褥瘡患者管理に関する助言・指導を行っている。その他、体圧分散マットレス等の褥瘡発生予防器具の効率的な配置・使用、創傷被覆材料などの新規購入検討、院内研修に加え、日本褥瘡学会学術集会への参加研修を通して褥瘡対策のアップデートを行っている。

2013年度は救命救急センターと合併したことにより、褥瘡回診の対象病棟が8病棟から10病棟となった。院内で統一した褥瘡処置・ケアが提供できるように、救命病棟への褥瘡回診も始めた。現在、褥瘡回診は毎週火曜日の午前中に行っている。チームメンバーのお互いの強みを生かしながら、褥瘡を有する患者に対して、よりよい医療が提供できるように協力している。

回診の対象となる患者は、NPUAP分類でⅠ度以上の患者と医療機器関連圧迫創の患者としている。頻回の排泄物による皮膚障害が発生した患者に対しても、病棟から依頼があれば褥瘡回診時にラウンドし、処置やケアについてアドバイスをを行っている。下痢に伴う皮膚障害患者への処置として、薬剤師の協力のもと、院内でブレンド軟膏を作成し、必要な患者に対して褥瘡回診で医師の診察後に処方を開始した。褥瘡を有している患者の栄養に対しては、栄養士が中心となり、NST回診と連携を図っている。また、看護局の褥瘡・NST委員会と共同し、2012年度から継続して全病棟の体位交換用枕やウレタンマットのへたり具合や在庫数および使用状況の調査を行った。エアマットの使用状況や修理

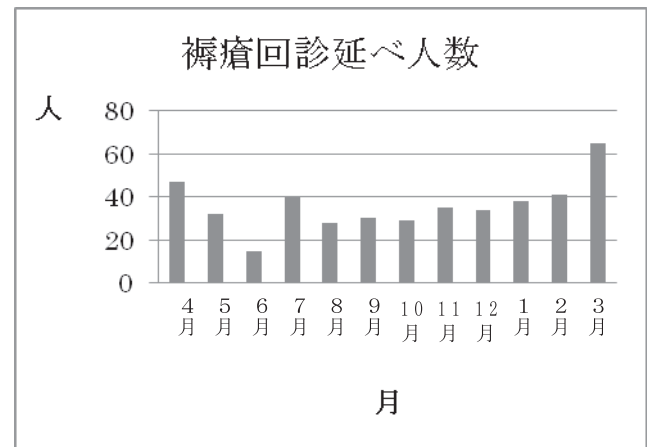


状況の調査も行った。その中で、体位変換枕の絶対数が不足していたため、褥瘡予防ケア介入が必要な患者数に対して体位交換用枕の新規購入を行い、各病棟に適正配置を行った。

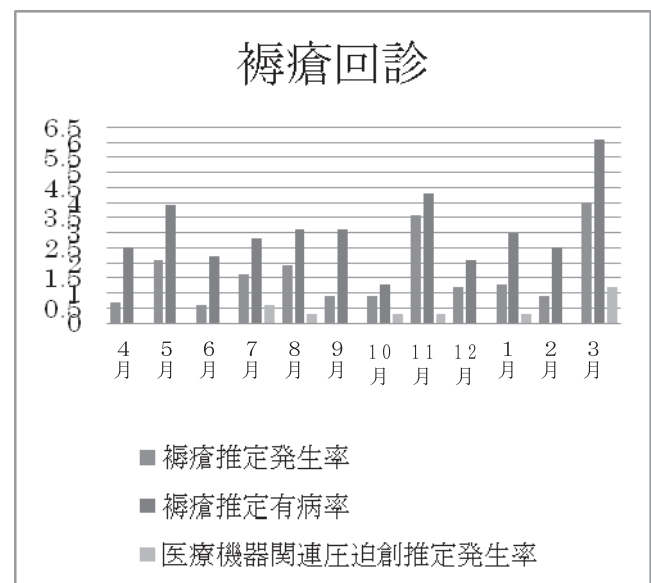
—実績—

2013年度褥瘡データ

延べ入院患者数121,313人中、褥瘡回診対象者は延べ434名であった。（月別回診者数は下記グラフ参照）



2013年度褥瘡推定発生率は1.6%、褥瘡推定有病率は3.1%、医療機器関連圧迫創推定発生率は0.3%であった。調査日を第1火曜日（休日・回診中止の場合、翌日火曜日とする）とし、対象患者は調査日の入院患者として算出。



褥瘡研修会

院内褥瘡研修会のテーマを【体位変換について】とし作業療法士を中心とし、実際にベッドと体位変換用枕を使用してポジショニング方法を実践し聴講者が体験できる研修を2回実施した。

